



## インドネシア初の地下鉄が完成 ～日本企業が全面支援～

北陸銀行 国際部  
バンクネガラインドネシア駐在  
岡坂 健生

### 1. はじめに

先月、インドネシアのジャカルタで都市高速鉄道が開業しました。3月24日に開業式典が開催され、翌25日から運行開始となりました。一部区間はインドネシア初の地下鉄として走行するため、国内では注目されています。ジャカルタは、都市圏人口が約3,000万人の大都市ですが、急速な経済成長と交通量の増加にインフラ整備が追い付かず、深刻な渋滞に悩まされてきました。この都市高速鉄道による渋滞緩和が期待されています。

### 2. MRT (Mass Rapid Transit) とは

今回開通するこの鉄道は、「MRT (Mass Rapid Transit : ジャカルタ都市高速鉄道)」と呼ばれ、ジャカルタ南部のレバブルスから中心部のブンダランホテル・インドネシアを通り、北のコタ地区のカンプン・バンダンに接続する延長23.8kmの南北線と、西のバララジャから中心部で南北線と交差し、東のチカランまでを結ぶ延長約87kmの東西線からなる全長約111kmのプロジェクトです。



【南北線のレバブルス駅外観:筆者撮影】

### 3. インドネシア初の地下鉄

MRT南北線は、フェーズ1とフェーズ2に区切られており、この3月に開通したのは、レバブルスとブンダランホテル・インドネシアまでを結ぶフェーズ1です。このフェーズ1は、南のレバブルスから9.7km(6つの駅)までが高架橋で、そこから北の5.9km(8つの駅)はインドネシアで初となる地下鉄で運行されます。



【建設中の地下鉄駅入口:筆者撮影】

## 4. 日本の全面支援により誕生

このMRTプロジェクトは、日本政府からのODAが活用されており、JICA(国際協力機構)を通じてすでに2,000億円以上の円借款が供与されています。また、フェーズ1の建設には、高い技術力とノウハウを持つ日本の大手ゼネコン(清水建設、三井住友建設、大林組、東急建設)が現地の企業とJVを組んで参画しており、車両においても住友商事と日本車両製造が受注するなど、まさに日本の全面支援により誕生するプロジェクトです。



【左:待機中のMRT車両、右:駅構内の改札口 (筆者撮影)】

## 5. おわりに

現地の人々からも大いに期待されているMRTですが、ジャカルタでは歩道の整備も進んでいません。マイカーや配車アプリでのタクシー利用が進むジャカルタにおいて、どこまで人々の交通手段としてMRTが浸透するのかといった課題も感じます。

しかし、4月の大統領選挙で再選を目指す現職のジョコ大統領にとって、MRTの開通はこれまで力を入れてきたインフラ整備の成果を示す大きな目玉です。また、巨大都市ジャカルタの交通渋滞緩和と更なる経済成長のためには、今後開通予定のMRT南北線フェーズ2やMRT東西線を含め、まだまだインフラの整備が必須です。

今回開通するMRTのメイド・バイ・ジャパンのクオリティは、現地の人々にも驚きと感動を与えることは間違いないでしょうし、我々日本人にとっても、日本の支援によって今後もインドネシアがますます成長していく姿を見ることが出来るのは、非常に楽しみです。

以上

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局

〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F

((株)人材情報センター内)

TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565

E-mail: info@chojo-hokugin.jp